

ハケ岳	赤岳鉱泉周辺で基礎訓練	No.102
-----	-------------	--------

この山行は石関と二人でピッケル、アイゼンの基礎訓練をするのが目的だったのだが……

昭和43年1月13日

新宿駅 21時半集合。連休とあって列車が予想以上に混んでいたが、石関が早めに来てくれたおかげで無事座席にありつくことができた。恩田、阿部の二人が見送りに来てくれた。新宿駅は雨、23時45分発。

昭和43年1月14日

茅野着5時50分、天気は雪。バス待合所の寒いところで朝食。登山客の数は多く、6時10分発のバスは三台になった。

美濃戸口着7時30分。ただでも寒い美濃戸口、吹雪に近い降り方でとりわけ寒さも厳しい。風も徐々に強くなり気温もかなり下がっているのが実感できる。

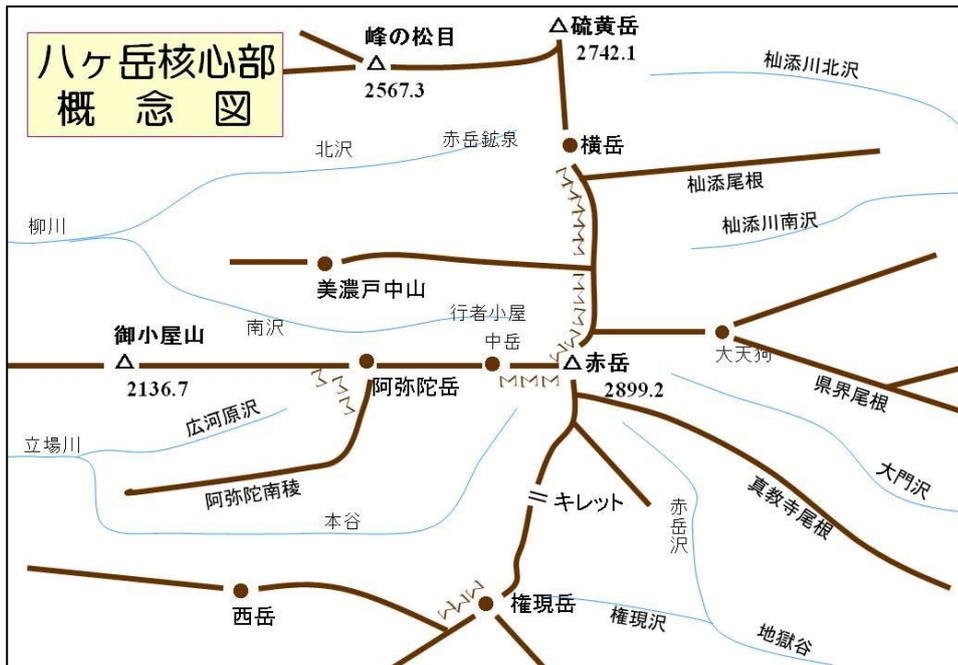
赤岳鉱泉12時45分着、気温は-16度。この雪ではとても稜線までは出られないので、早々と幕営を決定。しかし雪は1~2mあり、さらに降り続けている。風を避けて鉱泉の裏の樹林帯の入口にツェルトを設営することにした。120cmの雪をコッヘルで掘り下げてその穴の中にツェルトを張ったが、雪が軟弱なため腰の落ち着きが悪い。多少の住み心地の悪さはガマン。

吹雪の中で食事もとれずに4時間以上歩いてきたので空腹は絶頂。熱いココアをすすりながら昼食。

結局この雪では手も足も出ないので昼食後は昼寝、そして起きたところで夕食。

18時には就寝。運動不足気味だし退屈だし…とは言いながらも、夜行列車の疲れも手伝って眠くなり…

昭和43年1月15日



成人の日、5時起床、まだ吹雪は止まず。食事の後ツェルトを撤収してパッキングした荷物を赤岳鉱泉に預けて中山乗越まで出かけることにした。何しろぜんぜん歩かないのでは面白くないので。

赤岳鉱泉の寒暖計は-19度を示している。鉱泉の人の話では、昨晩は-21度まで下がったらしい。

今回は冬山を始めようという石関のために、練習

を中心とした山行をしようということになっていたもので、とりあえずアイゼン着けてピッケルを持ち武装して8時に出発。中山乗越まで行き、ピッケルワーク、アイゼンワークの練習をしようとしたが、今なお降り続く雪で膝を隠すほどの柔らかな雪。ピッケルとアイゼンの練習には不適當。

ザックを置いてある鉱泉に戻ったのは11時30分。ヤッケとオーバースボンに付いた雪がカチカチに凍ってしまった。寒さの程があらためて再認識できる。鉱泉の軒下で昼食を取り、下山。

踏み跡 < My mountains >

美濃戸口も茅野の町も雪が降り続けている。茅野の町中で数日雪が降り続くことなど最近では珍しいことだろう。そんな天気でも、美濃戸口から茅野駅へ行くバスは三台待ち。

茅野駅で、毎度おなじみの茅野食堂に入り昼飯を食べて、急行アルプス赤石に乗って帰宅。車内はスキー客でごった返していた。

冬山トレーニングとしての成果は、「氷点下 21度の夜をツェルトで過ごした」ことぐらいで、降雪が災いして技術的な練習の成果は皆無に等しかった。しかし寒さの体験をただけでも、十分に成果があったと言えるような気もした。

何よりも、初体験の石関の口から「寒い」という言葉が出て来なかったのは驚きだった。寒さに対する抵抗力があったのか、我慢強かったのか、どちらかはわからないが…。

以上

●後日譚:行動予定に大きな影響を与えた天候異変

大陸からの寒気を伴う高気圧に予想外の力があり、諏訪地方では大雪になった。

鉄道が動かなくなるころまでは行かず無事往復できたのだが、何年ぶりの大雪と報道されていた。

(修正・更新:2023年12月)